

会 議 録

名 称	長期計画審議会小委員会（第4回）
日 時	令和2年3月19日（木） 18:30～20:20
会 場	総合庁舎1階D会議室
出席者	[委員] 石渡委員、岡田委員、梶田委員、澤野委員、鈴木委員、根上委員 [事務局] 企画経営部長、長期計画コミュニティ課長、政策企画課長、企画係長2人、職員1人
会議次第	議題 1 新たな基本構想等の最終答申について
配布資料	【説明資料】 1 新たな基本構想及びこれを実現するための施策の基本的方向についての考え方（答申） 2 最終答申についての審議会委員からのご意見 3 最終答申についての職員からの意見 4 最終答申案に対する意見とそれに対する考え方 5 目黒区長期計画審議会答申次第 6 令和2年度の長期計画審議会の開催予定について
会議の結果 及び 主要な発言	[会議の結果] ○ 新たな基本構想等の最終答申について事務局から説明し、意見交換を行った。 ○ 最終答申受領セレモニー及び令和2年度の長期計画審議会の開催予定について事務局から案内を行った。 [主要な発言] ○ 『ともにつくる』という文言は、手続・手法ではあるが、重要なことではないか。 ○ 「区政運営の考え方」のところで基本的な事項として記載しており、「住民自治」は当然の前提と考えている。 ○ 『ずっと心地よいまち 桜咲くめぐろ』について、将来の目黒を表現するのに『ずっと』という、時間的な表現が入っていることが気になる。 ○ 『ずっと』という言葉から、心地よさの持続という意味を読み取れるため問題ないのではないか。 ○ 発声したときに引っ掛かりを覚えるため、『桜咲く』を先頭に持っていくと語感が良くなるのではないか。 ○ 基本は良いと思うので、語句の並びを検討すると良い。『ずっと心地よい 桜咲くまち めぐろ』とすると馴染みやすいのではないか。 ○ 『桜咲く 心地よいまち ずっとめぐろ』というのはいかが。フレーズにインパクトがあり、かつ『ずっと』に込められた持続可能性を目黒区全体にかかるよう広げた表現である。 ○ 『ずっとめぐろ』は躍動感と面白みがあり、ずっとに込められた意味をそれぞれの心のうちから見つけるきっかけになる良いフレーズだと思う。 ○ 『ずっと』と『めぐろ』の間に余韻を感じさせるよう、何か工夫できるとより良いのではないか。

- 『桜咲く』だと標語っぽさが強い。『桜咲き』のほうが賑わいも読み取れ、良いのではないか。
- 『桜』は『さくら』と平仮名にしたほうが、みどりや華やかさなど、より広い意味を内包した言葉であることをより表現できるのではないか。
- これまでの意見をまとめ、小委員会としては目黒区の将来像を示すフレーズを『さくら咲き 心地よいまち ずっと めぐる』とする。
- 政策分野別の将来像とそれを実現するための施策の基本的方向における、芸術・文化の振興の記載について、『子どものころから』とあるが、それよりも前の『ゆりかごから』という表現も良いのではないか。
- 今回の案で、広報・広聴の充実の記載が『区民が区政に関心を持っています』に変更となっているが、変更前の『参画』よりも後退したように感じる。主体性のある『参画』のほうが良いのではないか。
- 『参画』という言葉は主な施策の例示においても使用しているため、『協働』のような別の言葉を使ってはどうか。
- 『協働』は前提であり、ここだけに個別に盛り込むのは趣旨が違うのではないか。
- 意見に基づき、記載は従来そのままとする。
- 多文化共生の推進の記載について、もう一步踏み込み、『多文化交流機会の推進』を目指してほしい。
- デジタル化・スマート化の推進の記載について、スマート化という言葉が行政のスリム化、サービスの後退と受け取られてしまわないか。スマート化が区民サービス向上のためのものであることを明示したほうが良いのではないか。
- 『区民生活の利便性の向上』という言葉を入れてわかりやすく整理していきたい。
- 答申に当たってについて、感染症対策の記載を盛り込んでどうか。感染症対策はグローバル化の課題であり、将来に向けて言葉として残すべきだと考える。
- 同じく答申に当たってについて、情報通信技術の発展に対して『人と人とのつながりを希薄なものにしているのではないか』というネガティブな要素の記載があるが、この度の感染症対策において外出が制限される中、情報通信技術によって人とつながることができるという側面に強く光が当たったので、書き方を再検討してはどうか。

以 上